

## 第2期計画の取り組みと評価

- 施策目標1 市民の暮らしと文化芸術とのつながりを深める
- 施策目標2 地域の文化を大切に守り、次代につなぐ
- 施策目標3 すべての子どもが文化芸術に親しめる環境をつくる
- 施策目標4 文化芸術の振興を牽引する担い手を育てる
- 施策目標5 大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする
- 施策目標6 多文化共生社会の実現を目指し、様々な文化に親しめる環境をつくる

## 施策目標1 市民の暮らしと文化芸術とのつながりを深める

### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
過去1年間において1回以上文化芸術の鑑賞を行った市民の割合	80.0%	65.9% (2018)
自ら文化芸術活動を行っている市民の割合	40.0%	30.5% (2018)
文化芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合	56.4%	45.7% (2016)

### 現状と課題



#### 幅広い文化芸術事業の展開

「やまと芸術文化ホール」の開館により、これまで本市で見られることの少なかった質の高い文化芸術の鑑賞機会を提供しているほか、プロのアーティストとの交流を通じて市民の文化芸術への理解を深めるなど、市民の創造意欲を掘り起こし、主体的な活動へつなげる取り組みが進められています。

しかし、市民アンケート調査の結果から、時間的な余裕がないことや情報が十分伝わっていないなどの理由により、これらの鑑賞、活動に参加できていない市民も多いことから、それらのニーズに対する状況を把握し、取り組みを一層強化していく必要があります。

#### 地域間連携、他分野連携

市内の文化芸術活動が「やまと芸術文化ホール」に集中し、各地域で定着していた活動が希薄になることが懸念されます。「やまと芸術文化ホール」を拠点として、各地域の文化施設が連携し、文化芸術活動の一層の促進、展開を図り、市民にとってより身近な場所で文化芸術に親しめる環境づくりに努めます。

また、文化芸術により生み出される多様な価値は、私たちの生活に様々な恩恵をもたらし、まちのあらゆる課題を解決する手段として大いに期待されています。あらゆる分野でその価値を発揮するとともに、文化芸術の裾野を広げていくための取り組みを推進します。

#### 文化芸術への関わり方の多様化

文化芸術に関わる活動は、表現者や鑑賞者としてだけではなく、イベント等における「文化コーディネーター」や「運営ボランティア」のほか、寄附による支援等、その形態は様々です。

中でも、寄附については、文化芸術活動を継続的かつ安定的に行うため、資金面から文化芸術を支える重要な要素であることから、本市で管理している基金<sup>※</sup>の周知を図り、より多くの支援を集められるよう働きかけを強化します。

#### ※文化芸術に関する基金

- ・文化会館建設基金…文化会館建設等のために必要な資金を積み立てる基金
- ・生涯学習振興基金…市民および団体の文化芸術・生涯学習事業を支援するための基金
- ・文化振興基金…市の文化芸術事業を推進するための基金

## 施策目標2 地域の文化を大切に守り、次代につなぐ

### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合	42.9%	38.3% (2016)
歴史文化施設の利用者数	51,300人	54,443人 (2017)

### 現状と課題



#### 地域文化の継承

文化財の調査研究は地道な作業であり、その調査成果は必ずしも親しみやすいものではありません。そのため、研究の調査報告書のほか、わかりやすさを重視した刊行物の発行や文化財関連講座の開催、市民の知的欲求に応えられる展示テーマを模索するなど、市の歴史や文化を身近に感じられることが重要であると考えます。また、各催しの周知を強化するため、ホームページの充実等が必要となります。

2017年度（平成29年度）には、「福田の廻り地蔵および講中道具」を新たに市指定重要有形民俗文化財に指定し、それを披露するための巡回展を開催しました。

一方で、少子高齢化の進展や所有者の代替わりなどにより、文化財保護に関わる人材やその担い手の不足等、文化財を取り巻く多くの課題も顕在化しています。

#### 歴史文化施設の活用

歴史文化施設においては、季節ごとの展示替えや企画展の開催により、市域の風習や文化財の紹介に努めています。しかし、市民アンケート調査の結果から、特に若い世代を中心に施設の利用者数が伸び悩んでいることがうかがえます。

各種調査（建造物、歴史資料、民俗、埋蔵文化財）を継続して実施するとともに、講や民俗芸能等の無形文化財の映像記録を作成し、記録保存および啓発に努め、各種講座の開催や市域の民話・伝説を紹介する絵本を作成するなど、幅広い世代にも地域の歴史に興味を持っていただくための取り組みが必要となります。

### 施策目標3 すべての子どもが文化芸術に親しめる環境をつくる

#### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
市立小学校の文化芸術鑑賞・体験 1校当たりの実施回数	2.7回	3.4回 (2017)
市立中学校の文化芸術鑑賞・体験 1校当たりの実施回数	1.2回	1.3回 (2017)
対話による美術鑑賞ガイドスタッフの 登録者数	50人	54人 (2018)

#### 現状と課題



#### 子どもが文化芸術に親しむ機会の提供

教育委員会と協力して実施している「対話による美術鑑賞授業」をはじめ、学校教育の中で文化芸術の鑑賞や体験活動が取り入れられ、子どもたちが本物の作品や舞台芸術に触れる機会が着実に増えています。

また、「やまと芸術文化ホール」では子どもを対象にした公演やプロのアーティストとのワークショップ等の事業が展開されるなど、子どもが文化芸術に親しむ環境づくりが着実に進められています。

市民アンケート調査でも、子どもを対象にした文化芸術事業の展開に期待する声が多く寄せられていることから、引き続き事業を推進していくこととします。

#### 文化芸術の担い手育成

子どもたちは次代の文化芸術の担い手として大いに期待されていますが、少子化の傾向は一層進展することが想定されます。

子どもたちの文化芸術に対する興味、関心を効果的に引き出し、次代の担い手として定着、成長させていくためには、教育委員会、文化芸術団体等と連携を図りながら、子どもたちの文化芸術活動をサポートする体制を整備し、個々の状況に合わせた支援を可能にする仕組みを検討する必要があります。

## 施策目標4 文化芸術の振興を牽引する担い手を育てる

### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
イラストレーションデザインコンペの年間応募者数	600人	343人 (2018)
イラストレーションデザインコンペ入賞者への制作依頼件数	30件	22件 (2017)
やまと子ども伝統文化塾受講者数(累計)	1,000人	1,356人 (2018)

### 現状と課題



#### 文化芸術の継承者育成の強化

全国の若い世代を対象に実施している「YAMATO イラストレーションデザインコンペ」は、この数年の間、応募者数が伸び悩むものの、全国各地から作品の応募があり、若い世代の創造活動の促進に貢献しています。今後も継続して開催し、イベントの更なる周知を図ります。

また、入賞者を活用したイラスト制作は、市役所内を中心に制作依頼の制度が浸透してきたことから、ポスター、チラシ等のイラスト制作が増えています。今後は商店会や商工会議所等の民間事業者、団体との連携を強め、入賞者の活用方法を増やすなど、更なる発展を目指します。

「やまと子ども伝統文化塾」の受講者数は増加傾向にあり、複数年定着して受講する子どもや家族、友人の誘いにより新たに参加するなど、受講のきっかけは様々です。これらの伝統文化を習得した子どもがその継承者となるよう着実につなげていくため、文化芸術団体等と連携し、継続して支援をするための仕組みづくりが必要です。

#### 文化芸術を支える人材、体制整備

文化芸術団体等を構成するメンバーの高齢化が進み、自主的な活動に支障をきたす状況が起こりつつあります。

イベント全体をまとめる「文化コーディネーター」や会場の確保、関係者との調整等をサポートする「運営ボランティア」といった文化芸術の支援者が、文化芸術団体等の継続的な活動に欠かせない存在となっています。

今後、そのような支援者の活躍の場の創出を図りながら、人材確保に取り組んでいく必要があります。

## 施策目標5 大和の文化芸術の魅力を内外にアピールする

### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
芸術文化ホール年間利用者数	230,000人	306,018人 (2017)
芸術文化ホールホームページのアクセス件数(累計)	620,000件	864,710件 (2017)
YAMATO ART100来場者数	115,000人	100,908人 (2018)

### 現状と課題



#### 「やまと芸術文化ホール」によるPR

「やまと芸術文化ホール」は開館以来高い稼働率を維持し、その利用者数は想定を大幅に上回るものです。文化芸術の拠点として、市内外をはじめ、全国的に注目をされていることもあり、市主催の事業のほか、文化芸術団体等が開催するイベントも規模を拡大するなど、文化芸術を通じた本市のPRに大きく寄与しています。

「やまと芸術文化ホール」の運営については、利用者の意見を伺いつつ、指定管理者との情報共有を図りながら、より利用しやすい施設を目指します。

#### 情報発信の強化

文化芸術に関する情報は、本市のほか、各施設、文化芸術団体等が情報発信していますが、それぞれのホームページが異なるため、情報が分散し、市民にとって分かりづらい状況となっています。

これらを今後開設予定の大和市版文化芸術プラットフォームに集約するとともに、文化庁や神奈川県が運用を進めているホームページとの連動を図るほか、近年利用が拡大しているスマートフォン専用ホームページ及びアプリケーション、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service: 以下、SNS)の使用を検討し、情報発信の強化を目指します。

また、文化芸術顕彰者によるイベントを継続して開催し、市内を中心に活躍される芸術家を紹介することで、本市の文化芸術の魅力を広くPRします。

## 施策目標6 多文化共生社会の実現を目指し、 様々な文化に親しめる環境をつくる

### 取り組みの評価

モニタリング項目	目標	実績
国際交流が行われていると思う市民の割合	30.0%	22.3% (2016)
やまと世界料理の屋台村の認知状況	40.0%	16.3% (2018)

### 現状と課題



#### 文化芸術を通じた国際交流の機会の充実

「やまと芸術文化ホール」の開館を機に、友好都市である大韓民国京畿道光明市（以下、光明市）の合唱団を招聘し、本市合唱団等とのコラボレーションを通じた文化芸術交流が実現しました。引き続き光明市をはじめとする海外都市との文化芸術を通じた国際交流による機会の充実を図ります。

#### 文化プログラムの展開

「東京2020大会」のほか「ラグビーワールドカップ」などの国際大会が、本市の近隣で開催されることが決定し、開催期間中には多くの外国人が開催都市を中心に訪れることから、我が国全体で国際交流の機運が高まるものと予想されます。

本市においては、多くの外国人市民が居住しているという文化的特徴から、これを機に文化芸術による「多文化共生社会」の実現に向けた働きかけを一層推進します。

そのため、本市で開催する各文化芸術イベントについて、「東京2020大会」を契機として実施される「文化プログラム」を活用し、国や神奈川県と連携を図りつつ、積極的なPRに努めます。

